神奈川自然誌資料 (35): 25–26, Feb. 2014

江の島におけるシワセビロガニの記録

冨永早希・萩原清司

Saki Tominaga and Kiyoshi Hagiwara: Record of a Crab, *Epixanthus corrosus* A. Milne Edwards, 1873 from Enoshima Island, Sagami Bay

はじめに

シワセビロガニ（*Epixanthus corrosus* A. Milne Edwards, 1873）は，イソオウギガニ科の一種であり，砂が少しある岩礁の下に棲むとされている（武田 , 1982）。本種の分布域は，国内では相模湾以南，小笠原諸島とされている（武田 , 1982）。1963 年から 2006 年に池田（1981）や池田（1991）によって行なわれた相模湾における蟹類相の網羅的な調査ではいずれも江の島での本種の記録は報告されていない。また，1987 年から 2012 年における江の島動物相調査においても本種は確認されていない（植田・萩原 , 1988; 萩原・植田 , 1993; 植田ほか , 1998; 植田ほか , 2003; 植田ほか , 2008; 植田ほか , 2013）。

この度，著者らは相模湾江の島よりシワセビロガニを採集したので報告する。なお，本報告の分類体系は Ng *et al.*(2008) に, 種の同定は酒井（1976）に従った。

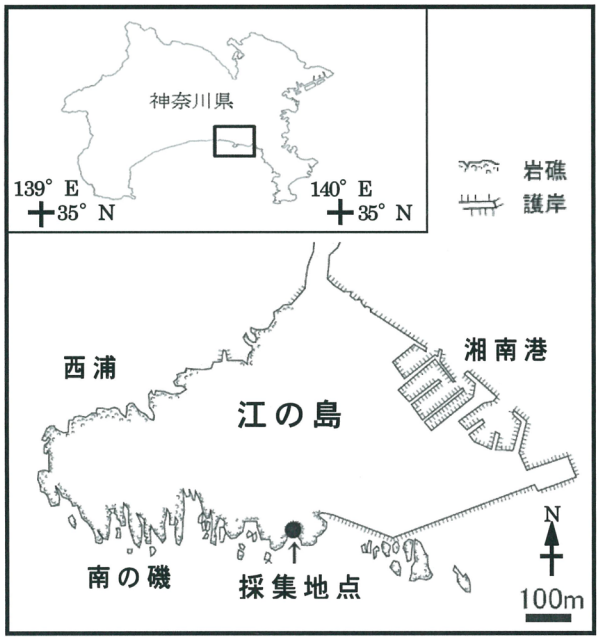

図 1. 採集地点.

試料

標本：YCM - C 1069（YCM - C：横須賀市博物館甲殻類資料）
産地：神奈川県江の島南岸，潮間帯上部転石地帯
北緯 35° 17’ 5”，東経 139° 28’ 50”（図 1）
採集日：2013 年 5 月 27 日
採集個体数：1
性別：雄

記載

オウギガニ上科 Eriphioidea
イソオウギガニ科 Oziidae
シワセビロガニ
Epixanthus corrosus A. Milne Edwards, 1873
（図 2）

甲長 9 mm，甲幅 19 mm。甲らは卵形で横に広く，額はほぼ直線で中央の切れ込みが浅い。体色は，甲面上部が濃い茶色，甲面下部および鉗脚・歩脚は薄い茶色。鉗脚・歩脚の先端は黒色。甲面は前側縁付近に小さな顆粒が並ぶ。特に後鰓域に顆粒状の横隆走が多い。鉗脚は右が大きく，腕節内縁末端には突起を備える（図 4）。腕節，前節ともに顆粒と皺でやや網目状。歩脚の各節は幅広く，長節，腕節に不規則なくぼみがある。また，本個体は，左の眼上板付近に 2 つのフジツボ類が付着していた。体色は生時およびアルコール固定時ともにほとんど変化していない。

付記

本種は熱帯性の蟹であり，相模湾まで北上していることは稀である（酒井 , 1965）。このため，相模湾における記録はいずれも散発的であり，酒井（1965），酒井（1975）以外に報告がないことが示されている（武田ほか , 2006）。さらに，相模湾周辺で採集され、所在が確

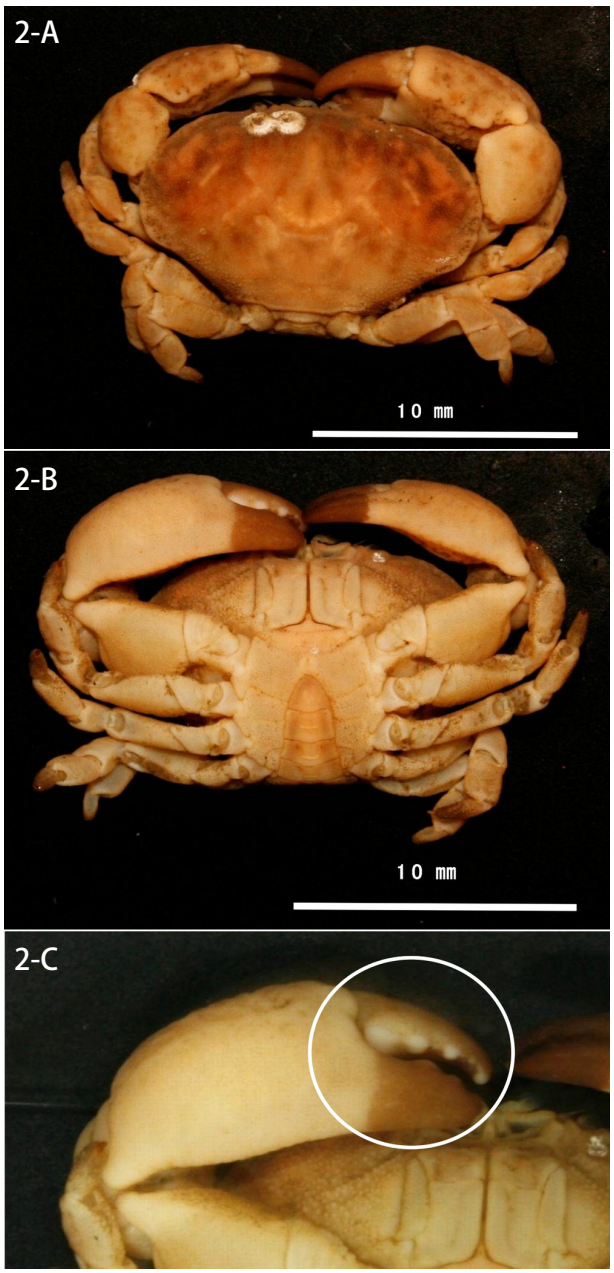

図 2-A. シワセビロガニ *Epixanthus corrosus* A. Milne Edwards, 1873. 背面. 相模湾江の島採集. YCM-C 1069. ; 図 2-B. 背面 ; 図 2-C. 右鉗脚腕節内面の拡大. ○印は腕節内面の突起を示す.

認できた標本は2006年に伊豆大島で報告された個体(国立科学博物館 NSMTCrS 657）のみであり，相模湾内で採集された標本の所在は確認できなかった。このように分布域とされている相模湾においての採集記録，現存する標本が極めて少ないことがいえる。今回，相模湾の江の島で本種が採集されたという記録は相模湾での分布を示す貴重な資料となる。また，一般的に潮間帯下部から潮下帯の転石の下に生息しているとされる（奥谷，2006）本種が潮間帯上部で見つかったことも珍しい例といえる。しかし，１地点１個体の採集であったため偶発的な個体である可能性も考えられる。今後も複数個体の生息が確認できるかどうか調査を続ける必要がある。

謝 辞

本報告を行うにあたり，相模湾海洋生物研究会の村石健一氏，新江ノ島水族館の伊藤寿茂氏，北嶋円氏，植田育男氏，岩崎猛朗氏，佐野真奈美氏には採集から本報告の取りまとめまで多大なご協力を頂いた。また，国立科学博物館の小松浩典氏には 2006 年に行なわれた相模灘における蟹類相調査に関して有益なご助言を頂いた。最後に本報告の機会を与えていただいた新江ノ島水族館の堀由紀子館長，堀一久氏をはじめとする展示飼育部の皆様に御礼を申し上げる。そして，本報告の投稿に際し，有益なご助言を頂いた査読者と編集委員の皆様に心から感謝申し上げる。

引 用 文 献

萩原清司・植田育男 , 1993. 江の島の潮間帯動物相Ⅱ. 神奈川自然誌資料 , (14): 53-58.
池田　等 , 1981. 相模湾で採集された蟹類－相模湾産蟹類目録 (Ⅰ) －. 神奈川自然誌資料 , (2): 11-2.
池田　等 , 1991. 相模湾で採集された蟹類 (Ⅱ). 神奈川自然誌資料 , (12): 41-44.
西村三郎 , 1996. 日本海岸動物図鑑 . 40pp. 保育社 . 大阪 .
奥谷喬司 , 2006. 海辺の生きもの . 257pp. 山と渓谷社 . 東京 .
Ng, P. K. L., D. Guinot & P. J. F. Davie, 2008. Systema Brachyurorum: Part1. An annotated checklist of extant brachyuran crabs of the world. *The Raffles Bulletin of Zoology*, Supplement, (17): 1-286.
酒井　恒 , 1965. 相模湾産蟹類 . 65pp. 丸善株式会社 , 東京 .
酒井　恒 , 1976. 日本産蟹類 . 291pp. 山と渓谷社 , 東京 .
武田正倫 , 1982. 原色甲殻類検索図鑑 . 182pp. 北隆館 , 東京 .
武田正倫・駒井智幸・小松浩典・池田　等 , 2006. 相模灘のカニ類相 . 国立科学博物館専報 , (41): 183-208.
植田育男・萩原清司 , 1988. 江の島の潮間帯動物相 . 神奈川自然誌資料 , (9): 23-29.
植田育男・萩原清司・崎山直夫 , 1998. 江の島の潮間帯動物相Ⅲ . 神奈川自然誌資料 , (19): 31-38.
植田育男・萩原清司・崎山直夫・足立　文 , 2003. 江の島の潮間帯動物相Ⅳ . 神奈川自然誌資料 , (24): 25-32.
植田育男・萩原清司・櫻井　徹 , 2008. 江の島の潮間帯動物相Ⅴ . 神奈川自然誌資料 , (29): 163-169.
植田育男・萩原清司・伊藤寿茂・北島　円・村石建一 , 2013. 江の島の潮間帯動物相Ⅵ . 神奈川自然誌資料 , (34): 25-32.

冨永早希：新江ノ島水族館
萩原清司：横須賀市自然・人文博物館